

## 平成27年度学校評価に関するアンケートについて 分析・感想等

### 1 生徒アンケートの結果から

#### (1) 全般

昨年度の結果と比較すると、大方同様の傾向が見られた。今年度最も評価が高かった項目は「集団の一員として充実した学校生活を送れるようなホームルーム活動が行われている。」(96.1%)である。学年毎に年間指導計画をたて、活動自体が一人ひとりが活躍する場となっていること、自分自身をしっかりと見つめる機会となることをコンセプトとして実施されていることが高い評価に繋がっていると考えられる。

上位項目の中で目立った変化は、「小国高校が好きである」、「小国高校に入学してよかった」について、8割以上の生徒が肯定的に捉えているものの、昨年度より10%以上値を下げているところである。3年生に比べ1・2年生の回答結果が低くなっている。調査結果をさかのぼると、年度により同程度の上下の変動がある項目ではあるが、気になるところである。今回の結果について、更なる分析を行いたい。

一方、下位の3項目の中で授業の復習について、欠かさず行っていると回答した生徒は31.2%と低い割合ではあるが、前年度を10%上回った。計画的に行われている小国高タイムの効果が見え始めている。

また、「式典や生徒集会時の校歌は、大きな声でしっかり歌っている。」が最も伸び率(+11.8%)が高かった。肯定的回答の割合はまだ理想に遠いが、これは本校への想いをしっかりと抱きながら、学校生活を積極的に送ろうとする心の表れだと感じる。この傾向が広く浸透していくことを願っている。

#### (2) 授業、学習、進路指導等

「先生は授業の工夫・改善に努め、わかる授業を行っている。」(88.3%)、「進路に関して先生は相談によく応じてくれる。また、アドバイスは適切である。」(90.3%)と、昨年同様本校教師の授業、進路指導に対する評価は高い。「授業のノートや板書はきちんと取っている。」は2位(94.8%)、「授業は真面目に受け、真剣に参加している。」(85.1%)と高い割合となっている一方、「授業には予習をして臨んでいる。」(16.9%)、「家では計画性を持って自宅学習を行っている。」(36.4%)と、依然として家庭学習面で課題を抱えている。前述のとおり復習を行う生徒が増えてきていることから、小国高タイムの目的である、授業→OT(復習)→宅習(予習)のスパイラル化が完成するよう、生徒がもう一步前進できるための指導の工夫を考えていきたい。

#### (3) 基本的な生活習慣等

「掃除は真面目に取り組んでいる。」(92.2%)、「基本的な当たり前の生活(あいさつ・服装・言葉遣い)がきちんとできている。」(89%)に裏付けられているとおり、本校生の掃除への取り組みや挨拶の励行は習慣化している。このことに限らず、集団生活上のマナーや相手を思いやる気持ち等を身につけている生徒が多いのは、日常的な指導もさることながら、「生徒指導の方針が明確に示されている。」(84.4%)と、大半の生徒が方針への理解と、自ら進んで取り組んでいこうとする姿勢を持っていることにある。

## 2 保護者及び教職員アンケートの結果から

### (1) 保護者

昨年度と比較すると、全38質問項目中24の項目で評価が上がっている。また、8割を超える肯定意見をいただいた項目は14にのぼり、これも昨年度を上回っている。全体的に見て高い評価をいただいていると言える。2番目に高かった項目は、生徒の評価と同様、「学校の掃除は行き届いている。」である。「先生は授業の工夫・改善に努め、わかる授業を行っている。」に着目すると、同項目の生徒評価は(88.3%)に比べ保護者評価は(68.0%)と、その差が20.3%と大きくなっている。この大きな差の原因として考えられるのは、やはり学校の中での生の様子が生徒を通じ保護者に十分に伝わっていない可能性もある。開かれた学校づくりの一環で公開授業週間を設けているが、保護者や地域の方々の参観数も少ない状況である。学校をより知っていただくためにも、実施形態や告知の方法等の検討が必要だと思われる。

また、「小国郷唯一の高校として、地域の期待に応えている。」(86.7%)に対し「『小国郷に対する郷土愛の育成』が図られ、効果が上がっている」は(67.3%)と、20%余りの差がある。郷土愛の育成は地域の期待の重要要素であることを教職員は更に意識し、教育活動にあたっていきたい。

### (2) 教職員

昨年度と比較して、大きく評価が変動した項目が存在した。著しく評価を上げた項目は、「地域の人権教育研修会等には積極的に参加している。」(81.5% 昨年比+23.8%)、「基礎・基本の定着及び家庭学習の習慣の確立のための手だてを行っている。」(92.6% 昨年比+19.5%)である。前者については人権教育に対する意識の高揚が、全職員による学習会の参加が今年度から実施されたことが結びついていると考えられる。また、後者について、家庭学習時間調査における生徒の学習時間の確保が伸び悩む現状を、進路目標の達成を目指すうえで生徒の実践に何とか結びつくよう工夫を行っていることが挙げられる。逆に大きく評価を下げた項目は、「『小国郷に対する郷土愛の育成』が図られ、効果が上がっている。」(昨年比-10.8%)であるが、昨年度と比較して評価が大きく変化する要因は特に見当たらないが、同項目における保護者評価の値も低くなっている。

### (3) 保護者と教職員との比較

教職員評価の方が高い項目が多くなっている。各項目について直接指導に携わっているのは教職員であることから、こういう結果となるのはごく自然なことであり、特別問題ではないと考える。

「生徒の基本的な生活習慣(あいさつ・服装・言葉遣い等)は、確立されている。」「学校の掃除は行き届いている。」「教育目標に基づいた教育実践(学校行事等)が行われている。」については、保護者の方々からの評価の方が高く、これらについては教職員の方が厳しい視点で見ているのであろう。